

令和元年度 第3回ぎふ少子化対策県民連携会議開催結果

1 日時

令和2年1月17日（金） 14時30分～15時30分

2 場所

県庁 4階特別会議室

3 出席者

浅野 健司	(岐阜県市長会 各務原市長)
石井 亮一	(一般社団法人岐阜県私立幼稚園連合会 会長)
小川 信也	(一般社団法人岐阜県経営者協会 会長)
小田 江理子	(岐阜労働局 雇用環境・均等室長)
木村 麻理	(NPO法人山県楽しいプロジェクト 理事)
下屋 浩実	(岐阜県私学団体連合会 会長)
梶浦 良子	(NPO法人キッズスクエア瑞穂 理事長)
高橋 尚美	(岐阜県私立幼稚園PTA連合会 会長)
竹内 治彦	(岐阜協立大学 学長)
戸野部 晴香	(岐阜協立大学 学生)
中島 由紀子	(NPO法人グッドライフ・サポートセンター 事務局長)
中谷 敬子	(岐阜県商工会女性部連合会 会長)
中村 源次郎	(一般社団法人岐阜県経済同友会 筆頭代表幹事)
福富 泰岳	(岐阜県保育研究協議会 会長)
安田 典子	(NPO法人くすくす 理事長)
度会 さち子	(岐阜県各種女性団体連絡会議 代表)

以上16名 ※50音順

(県)

北川 幹根	健康福祉部子ども・女性局長
古田 幹雄	健康福祉部子ども・女性局子育て支援課長
伊左治 直	健康福祉部子ども・女性局子育て支援課少子化対策企画監
赤地 昭弘	健康福祉部子ども・女性局男女共同参画・女性の活躍推進課長
山田 浩司	健康福祉部子ども・女性局子ども家庭課長
植野 晃	健康福祉部地域福祉課長
岩田 太	健康福祉部障害福祉課社会参加推進企画監
桑田 善晴	商工労働部商工政策課長
恩田 英茂	商工労働部産業人材課長
松本 順志	教育委員会教育総務課長

4 議事

第4次岐阜県少子化対策基本計画（案）について

5 議事要旨

別紙のとおり

令和元年度 第3回ぎふ少子化対策県民連携会議・議事要旨

1 開会

- ・子ども・女性局長あいさつ

2 第4次岐阜県少子化対策基本計画（案）について

<子育て支援課少子化対策企画監>

- ・資料について説明

<会長>

- ・前回会議での皆様の意見を受けて修正した計画（案）について説明をいただいた。この計画（案）についてご意見、ご質問あるか。

（意見なし）

- ・それではこれをもって計画（案）を承認とさせていただく。
- ・今後この計画を進めていくにあたってご要望等についてご意見いただきたい。
- ・私から1点、今回で第4次計画ということになるが、今後他の方に説明するためにも、第4次の計画について現行の第3次計画から何が変わったのか、第4次計画の性格やポイントをまとめていただきたい。

<子育て支援課長>

- ・第4次計画の策定については、様々な方からのご意見を反映し作成している。その意見の中で多くあったのが、子育て環境については整備が進んできているけれども、地域におけるつながりの希薄化や、それに伴う子育ての孤立化、保育力の低下が進んでいるという問題であった。そういった部分に対応するため作った基本政策の1本目の柱「子育てを社会全体で支える意識を高めるための環境づくり」で、子育てに関する意識を醸成していくという取組みを新たな柱として打ち出したこと。
- ・また、幼児教育・保育の無償化に伴う国の支援メニューの中で、手の届いていない隙間があり、そういった隙間を埋めていくきめ細かな支援についても計画のなかに位置づけた。
- ・結婚支援については、経済的な自立が大切なのではないかというご意見も踏まえ、経済的支援、産業育成の支援についても計画に盛り込んでいる。

<会長>

- ・大きく4つの基本政策の柱がある中で、2番目から4番目の柱については3次計画から引き継いだものであり、1番目が新しい柱となる。この1番目の柱は、最初は「意識づくり」として提案を受けたが、行政の施策として意識そのものをつくるという表現はいかがかという議論もあり、意識を形成していく環境づくりという形でまとまった。県民の皆さんがその気にならないと、という観点から、意識を高める環境づくりの施策をまとめてもらった。ここの部分が第3次計画と比べて特に新しくなっているところかなと私も感じている。

<委員>

- ・意識を高める環境づくりというところで、「男女共同参画」という言葉が明確に入ったのは大きいと思っている。国が男女共同参画社会基本法を作った時の大きな目的の一つが少子高齢化社会の解消だった。男女共同参画の様々な項目が押さえられているのは大変良いこと。
- ・SDGsのアイコンを記載するとのことだが、意図は何か。

<子育て支援課少子化対策企画監>

- ・SDGsの取組みに関するアイコンを計画に記載することで、各基本政策がどういったものを社会にもたらそうとしているのか、また、施策を実施していく主体の視点からも自分たちの事業などが

社会にどういったことをもたらすのか明確になると考えている。

<委員>

- ・結婚相談支援について、以前市の少子化対策の委員をしていたときに、相談についての数字を出していただいたら、半分以上が高齢者の結婚相談の数字だった。高齢の方の結婚相談も大切なことではあるが、少子化対策としてその数字が計上されるのは違うという話をしたことがある。しっかりと市町村と連携をして、指標等の少子化対策の数字として適切なものを集計してほしい。

<委員>

- ・女性の活躍支援という項目で、農業、林業など業種を絡めているのは良いこと。
- ・女性が起業するというだけでなく、事業承継していくことについても重要であるため、事業承継も含めた記載であるとありがたい。

<子ども・女性局長>

- ・女性の活躍という観点で、今回は起業ということについてご意見をいただいたため、こういった記述をさせていただいた。事業承継について、中小企業を中心に、若い人がいなくなる中で、今までは息子さんが後を継ぐことが基本的な考え方とだったのかもしれないが、そこを女性が継いでいくということも大切だと思う。
- ・女性の活躍としては、「ぎふ女のすぐれもの」でも活躍いただいている岐阜市の醸造企業では、東京から戻ってきた女性が新たな観点からの商品開発に取り組んでいる。そういった事業承継の例もある。

<会長>

- ・ワーク・ライフ・バランスに関する取組みについては元々計画に入っていたが、ワーク・ライフ・バランスだけでは弱いということで、起業と農業・林業のところを加えた経緯がある。事業承継についても計画に書き加えることができると思うのでご対応いただきたい。

<委員>

- ・子どもの自己肯定感などについて以前から意見が出ていて、今回愛着形成の文言が入ったのは良かった。
- ・AIを活用した結婚支援のマッチングについて、若者の経済状況、年収などのデータを活用した先進事例があれば活かしていただきたい。また、AIを活用したお見合いサービスは広域的に利用できるのか。

<子育て支援課少子化対策企画監>

- ・今取り組んでいるシステム改修を経て、AIを導入したお見合いシステムを開始する予定。これからのため、どういった方が実際に登録して利用されるのかわからないが、今後注視して参りたい。
- ・広域ネットワークについてもAIは活用していくため、成果を期待したい。

<会長>

- ・前段の結婚や年収の機微な情報は個人情報なので活用は難しいのではないかな。

<子育て支援課少子化対策企画監>

- ・プライバシーや個人情報の扱いに注意して進めて参りたい。

(以上)